

マルチステークホルダー会議 御中

食品廃棄物削減と有効利用の取組み



2014年8月20日
イオン(株)グループ環境・社会貢献部
金丸 治子

イオングループの管理する領域

食品関連事業を営む連結事業会社・機能会社

＊重点企業：年間排出量100トン以上

小売業

GMS・SM・戦略小型

外食・中食

オリジン東秀

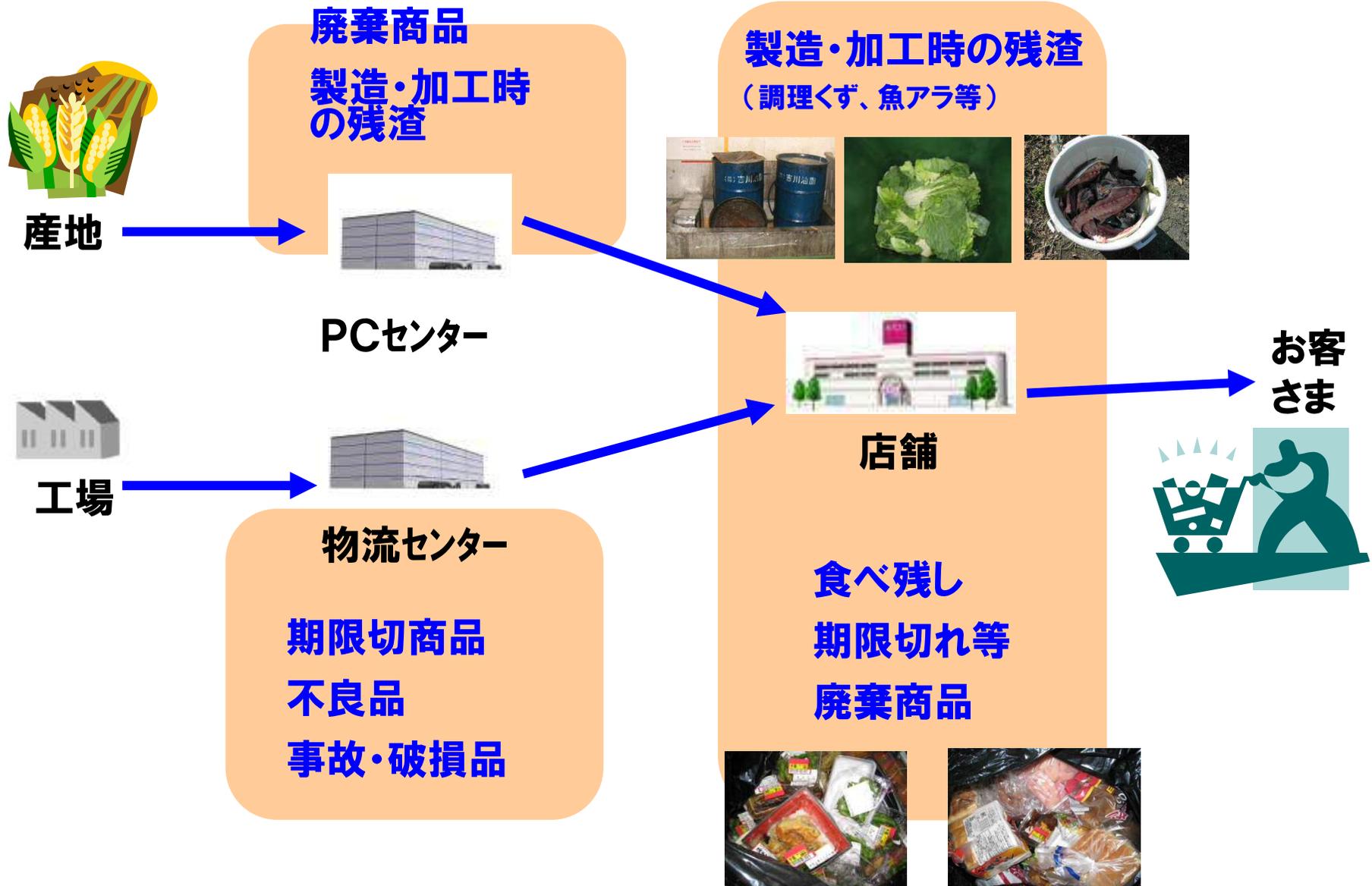
機能会社

AFS・ATV(株)・調達(株)

＊イーハートはテナント出店が多いため対象外

廃棄物区分	小売業	外食 中食	PC	機能会社
販売期限切れ等の廃棄	○	○	○	○
加工時の残渣	○	○	○	—
調理時の残渣	○	○	—	—
食べ残し	—	○	—	—

発生する食品廃棄物



今までイオンで行ってきたこと

(1) 食品廃棄物削減の取組:

廃棄売変率(廃棄売変額 / 売上額)の削減

(例)イオンリテール(株)

ISOの全社目標として取組む

- ・実績の「見える化」ワースト部門のてこ入れ、原因追究
- ・発注、見切りの精度の向上
- ・前日の廃棄量を朝のメンバーに写真で伝え、その日の製造計画に活かす

今までイオンで行ってきたこと

(2)リサイクルの推進 廃棄物の分別の徹底



- ①廃食油・魚アラのリサイクル委託推進
（廃食油は100%リサイクル）
- ②生ごみのリサイクル業者への委託推進
→肥料、飼料、油、油脂製品など

今までイオンで行ってきたこと

(3)リサイクルループの構築

地域で完結する循環型社会の構築



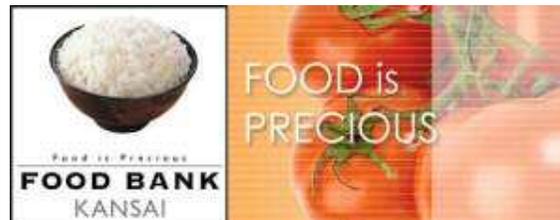
イオンリテール、ミニストップ、マックスバリュ関東
マックスバリュ中京、マックスバリュ西日本
イオンフードサプライ、イオンイーハート……

今までイオンで行ってきたこと

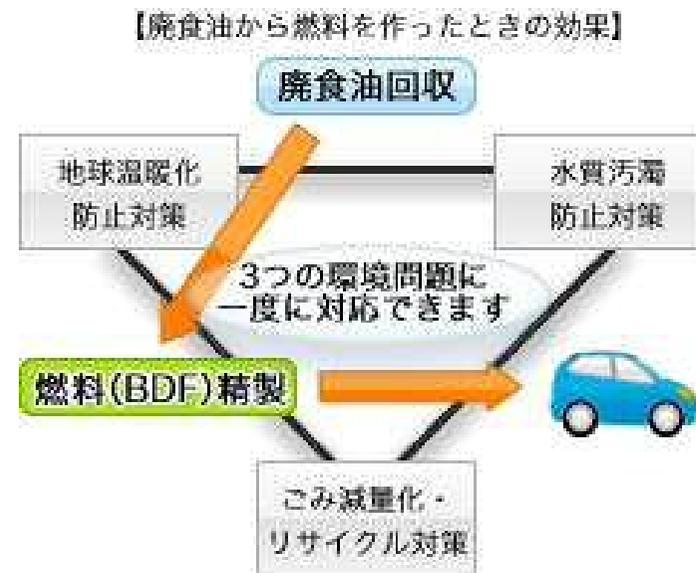
(4) コミュニケーション: 地域との関係



イオンチアーズクラブの子どもたちがリサイクル工場を見学



【MV西日本】
フードバンクへの協力



【イオンタウン佐沼】
市の取組に協力、毎月11日にお客様から廃食油を回収→バイオディーゼルを精製



課題

- **再生利用 ⇒ 発生抑制**
発生抑制の取組み強化
- **エリアによる再生事業者の偏り**
- **廃棄物処理法による収集運搬の制限**
- **再生処理によるコスト増**



イオングループの目指すべき姿

1. 発生抑制

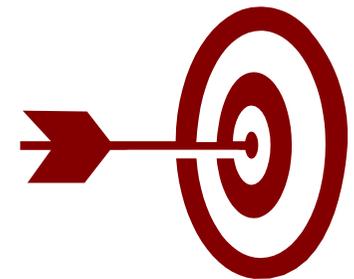
KPI 売上げ1億あたりの排出量の削減
廃棄量の「見える化」削減取組の効果測定

2. 再生利用の推進

すぐれたノウハウを持つ業者とのパートナーシップ
⇒飼料、肥料、油脂・油脂製品
メタン、炭化製品、エタノール製造など

3. グループでのループの構築

エリア単位にグループ企業共同で構築



食品リサイクル法に グループで取り組む事の効果

1. コーポレートブランドの向上

お客さまとのコミュニケーション

2. 店舗毎の営業利益に貢献

(共通課題の集約、ノウハウの共有)

廃棄売変の削減・インスタ加工の歩留まり向上

3. 経費削減

廃棄業者への委託費用の削減

